

第1回公立大学法人島根県立大学中期目標検討のための有識者会議 議事要旨

1. 日時

平成29年5月2日（火）13:30～15:30

2. 場所

島根県民会館 303会議室

3. 出席者

（委員）

佐竹委員、青委員、樫山委員、青野委員、竹内委員、今井委員、宮崎委員、久保田委員、春日専門委員、山本専門委員

（事務局）

松尾総務部長、野津総務部次長、藤井総務課長、高宮私学・県立大学室長、井上企画幹、藤原企画員、梶主任主事

（公立大学法人島根県立大学）

清原島根県立大学理事長・学長、小池副理事長、江口副学長（浜田）、山下副学長（出雲）、岸本副学長（松江）、山崎事務局長、土井事務局次長、松村事務室長（出雲）、柴田事務室長（松江）、福間企画調整室長

4. 議題等

- （1）会議の設置趣旨等の説明、座長の選任
- （2）島根県立大学の現状について
- （3）大学法人における認識について
- （4）意見交換

5. 会議の概要

- （1）会議の設置趣旨等の説明、座長の選任
事務局より資料2～資料5により、設置趣旨、スケジュール等を説明した。
委員の互選により、古瀬誠委員を座長に選任した。
- （2）島根県立大学の現状について
事務局から、参考資料1により島根県立大学の現状について説明した。
- （3）大学法人における認識について
島根県立大学から、大学の現状、今後の目指すべき姿等について説明があった。
○今後の大学運営の基本的な姿勢
・県民に信頼される大学、県民に評価される大学、県民に開かれた大学。

○県内入学者の確保と学生の県内就職

- ・県立大学として県内入学者の確保を一番に考える。県内の高校生を引きつけるような、魅力ある教育内容を持つ学部学科を目指す。その先には、県内定住人口の増加があり、公立大学に課せられた大きな課題と認識。
- ・島根大学の地域貢献人材育成入試を上回る入試制度の検討をしていく必要がある。
- ・県大生の県内就職、一度県外で就職した学生が県内に帰って来られるような取り組み（キャリア支援）が必要

○国際交流・地域貢献

- ・学生がグローバルな視点を持ち、かつ地域のイノベーター（革新者）となる人材を育てるのにどのような国際交流が必要か考えていく。
- ・地域貢献は一番重要な課題。県下全ての自治体と連携を進め、島根全体がキャンパスになるような意気込みで進める。

○大学の運営体制について

- ・離れた3キャンパスを統合的に運営していくかが課題。
- ・今後は教授会の意見を聴きながら、理事会を中心として外部理事の意見も聴きながら大学運営を進めていく。

(以上を踏まえて) 地域貢献で全国一になることを目指す。

(4) 意見交換

○委員1

- ・海外の課題と日本の地域が抱えている課題は同じ。国際的な視点と地域貢献の視点は切っても切れない関係性がある。
- ・島根県は、J A I C Aの青年海外協力隊の千人あたり協力隊派遣数が日本一で、ボランティア精神や課題へのチャレンジ精神を持っている地域である。グローバルな人材を育成するという観点では、そのような経験をした人材が当地に帰ってきて貢献することもありではないか。
- ・総合政策学部のコース選択で北東アジアが少なくなっているのは、将来の就職と関係しているのではないか。海外のどの地域にビジネスのポテンシャルがあるか、県内企業がどういった人材を求めているかとつながってくる。島根県内では、山陰インド協会でのインドとの交流や、県内の企業の多くがタイなどASEANへ進出をしている。これまでの北東アジア研究も踏まえて、そのような地域に研究を拡大することも1つの方向性としてあるのではないか。
- ・島根県のいいところは、島根県立大学と島根大学の2大学しかないので協力体制をつくりやすいところではないか。留学のプログラムや、留学

生の就職支援、海外出身大学院生のインターンシップなど進めていければよい。

○委員 2

- ・浜田市の県立高校のあり方を考える会に出席していたが、高校生の教育に関しても、地域を愛する、地域に貢献する人材育成がキーワードであった。地域貢献に向けた人材育成は、非常に重要なことと思うが、小学校段階からふるさと教育を進めていかななくては、完全にはできないのではないか。
- ・大学にとって、教育内容の魅力を高め、優秀な人材を輩出して実績を積み重ねることが、地域の信頼を得ることになる。ただ県内学生を集めるためではなく、優秀な人材を育成していけば、県内の評価もあがり、自然と学生も集まってくる。

○委員 3

- ・地元の大学で学んで、地元貢献することは非常にいいことと思うが、なぜ近くにいい大学があるのに、学生が県外にでるのかを考えると、若い世代への発信が足りないのではないか。島根県は歴史的・文化的にも非常に魅力のある地域。そういった歴史的資源が豊富にある場所で学べる優位さを分かりやすく発信してほしい。
- ・地域貢献について、学生が授業のなかで、地域と一緒にできればよい。学生が、地域に残ってこういう仕事をしたい、自分が学んだことを活かしたいと思うような学びの場になればよい。

○委員 4

- ・入学者の志望動機をみると、「学費が安い」「県内にあるから」といった、他律的な要因が上位にきている。これを自律的キャリア形成に変えていくことが大きなテーマだ。
- ・県立大学の学生とは、インターンシップに入る前の3年生と関わっているが、意識が高く、目標が明確な学生が多い。それが、ボランティアの実績や、学生の地域とのつながり、島根県内の企業が他県と比べて人材育成に力を注いでいることに繋がっているのではないか。
- ・高校生が大学進学先を決めるにあたり、保護者・高校の先生の薦めが多いので、その層へのPRを強めるべき。
- ・山口大学でキャリア教育に携わっているが、学生は働いている人が生き生きしている会社を志望する。高校生にも、県立大学生が生き生きしている姿を見せていくことが必要。
- ・県内就職については、小学生・中学生からのふるさと教育に通じている。実際に中学・高校のキャリア教育は充実してきており、中長期的な視点

が必要。島根県立大学の魅力を教職員が高校生に対して分かりやすくプレッシャーを与えることなく伝えなくてはならない。

- ・島根で働きたいという価値観を養い、これを就職と結びつけることが、キャリアカウンセラーの課題だと認識している。
- ・高校生が進学で県外に出るにあたり、いつどういった形で島根に帰ってくるというキャリア育成、具体的目標を持ったキャリア教育が必要。

○委員 5

- ・地域政策学部増設の要望をしてきたが、背景は2つ。まずは、浜田キャンパスの将来への危機感がある。県立大学は県西部にとって財産ではあるが、このままで果たして大丈夫なのか。地元の学生が少なく、県外生が7割という現状もある。
- ・県外からきた学生の7割は地域の事を研究したいと考えているなかで、総合政策学部という百貨店のような看板を掲げて、全国から学生を集めるアピールに果たしてなるのだろうか。もし逆回転の力が働けば、定員を確保するために学力が低下し、就職にも影響してくるのではないか。
- ・もう1つは、県立大学である以上は地域に貢献していただきたい。島根県は過疎県のトップランナーであるため、いろいろな課題を抱えている。もっと地域に入って、自治体と一緒に解決していただきたい。地域の相談相手となる教員をもう少し増やして欲しい。そうすれば、地域を学ぶ学生を増やすことになり、卒業したあと地域で活躍する学生が増えてくれる。
- ・地域政策学部の提案は3年前だったが、その間、全国の国公立大学を中心に地域研究を行う学部が増加しており、地域の事を学びたい学生が島根県立大学に来なくなるのではないか。
- ・清原学長の大学運営の考え方に大変共感を覚える。浜田キャンパス将来構想について、法人の結論と新学長の思いは必ずしも一致していないように感じる。再度のすりあわせが必要ではないか。

○委員 6

- ・島根県立大学が信頼されるためには、県民が、県内にいい大学があるということをもっと知るべき。小学校・中学校・高校の先生に良さを知ってもらい、生徒に対して島根県の良さ、島根県立大学の良さを言ってもらえればよい。
- ・今の学生は、スマホの時代でコミュニケーション不足を感じる。そういった指導も大学でしてほしい。

○委員 7

- ・これまでの県内高校の進路指導は、優秀な人材を県外に送り出していた。これからは地域を見つめる人材を考えていかないといけない。
- ・ただ、極論からいえば高校には役割があるので、基幹となる高校は国・世界を目指す人材、中山間地域の高校や専門高校は地域を支える人材を育成していく。
- ・現在のセンター試験を課す入試制度だと、専門高校から入学ができない。優秀な人材を島根県に残すためにも、専門高校から県立大学へ入学できるようにしてほしい。また、地域で生徒がどのようなことをしてきたのかを評価するようにしてほしい。
- ・島根県全体を考えると、地域を考えるにあたって、保一幼一小一中一高の長期的なつながりが必要。県立大学にも地域との繋がりをつくっていただきたい。

○委員 8

- ・看護学部の県内出身者が減少しており、分析をしっかりとしてほしい。
- ・看護の学生は地元志向なので、地元の学生を育てて地元就職してもらえるようにしてほしい。
- ・最近の医療は在宅医療が進められている。高度な知識が必要なので、看護の大学院への博士課程の設置について議論していただきたい。

○委員 9

- ・栄養士の分野でも、独居老人と保育園児との食を通じた交流など、地域との繋がりが非常に強い。学生には地域の現状を知り、地域と協働していろいろな取り組みをしてほしい。
- ・小さいときからの食育を受けた高校生が県立大学で学び、卒業後地域に貢献していけるようにしてほしい。
- ・地域では管理栄養士など人材が不足している。4年制化によって人材が地域に貢献することを期待する。

○委員 10

- ・シビックプライド、ふるさとへのプライドをどう高めていくか。
- ・県内の高校生・県大生も地元の良さ、地元に残る値打ちを知らないのではないか。シビックプライドのベースを県立大学がつくる必要がある。
- ・マイルドヤンキー(地域志向の若い人)は、昔と比べて多くなっている。彼らに地元就職先をインターンシップなどでいかに認知させていくか。
- ・兵庫県は、県下36の全大学と協定を結んで、連携してインターンシップ等を実施している。
- ・一度就職してから離職した第2新卒者への就職支援が必要。